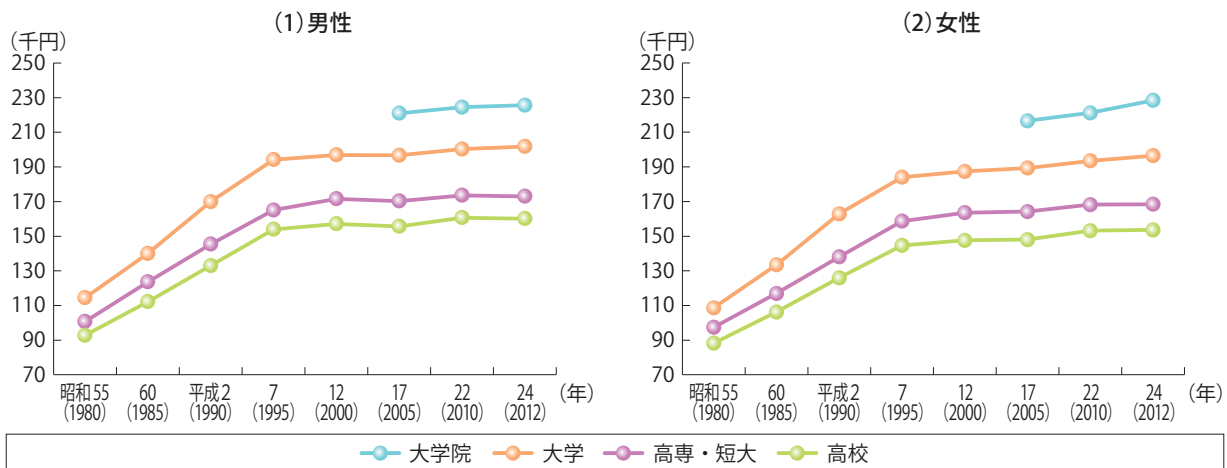


第1-4-12図 新規学卒者の初任給（名目値）



(出典) 厚生労働省「賃金構造基本統計調査」
 (注) 1 初任給は、当該年次における確定した額であり、所定内給与額から通勤手当を除いたもの。
 2 女性の大学卒業者については、昭和61年までは事務系の、62年以降は事務系と技術系を合わせた数値。
 3 大学院修士課程修了者については、平成17年から調査。

第2節 若年無業者、フリーター、ひきこもり

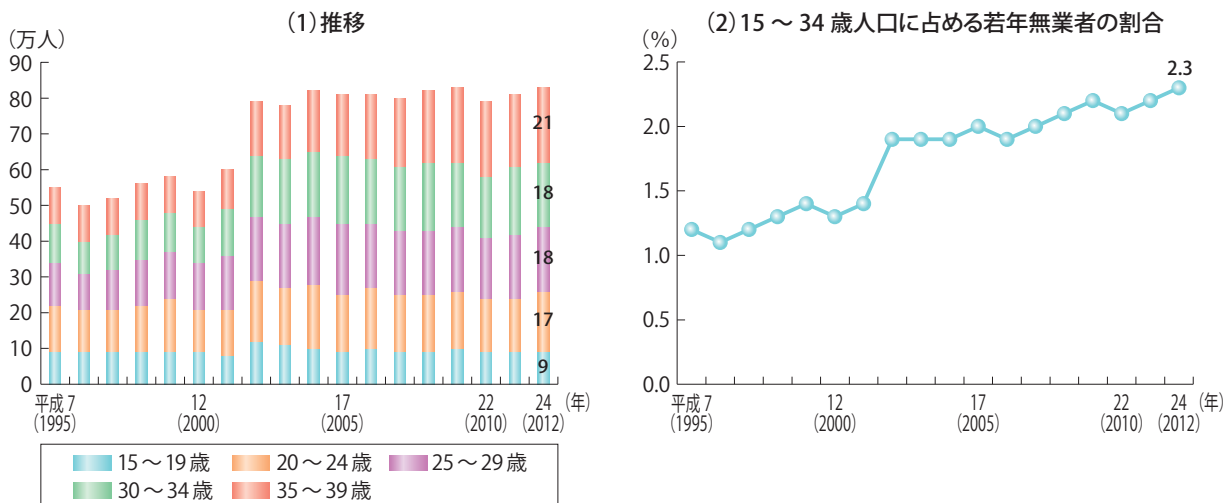
1 若年無業者、フリーター

(1) 若年無業者

15～34歳の若年無業者は63万人、15～34歳人口に占める割合は2.3%。

若年無業者（15～34歳の非労働力人口のうち、家事も通学もしていない者）の数は、平成14（2002）年に大きく増加した後、おおむね横ばいで推移しており、平成24（2012）年には63万人である。15～34歳人口に占める割合は緩やかに上昇しており、平成24年は2.3%となっている。年齢階級別にみると、15～19歳が9万人、20～24歳が17万人、25～29歳が18万人、30～34歳が18万人である²¹。（第1-4-13図）

第1-4-13図 若年無業者数



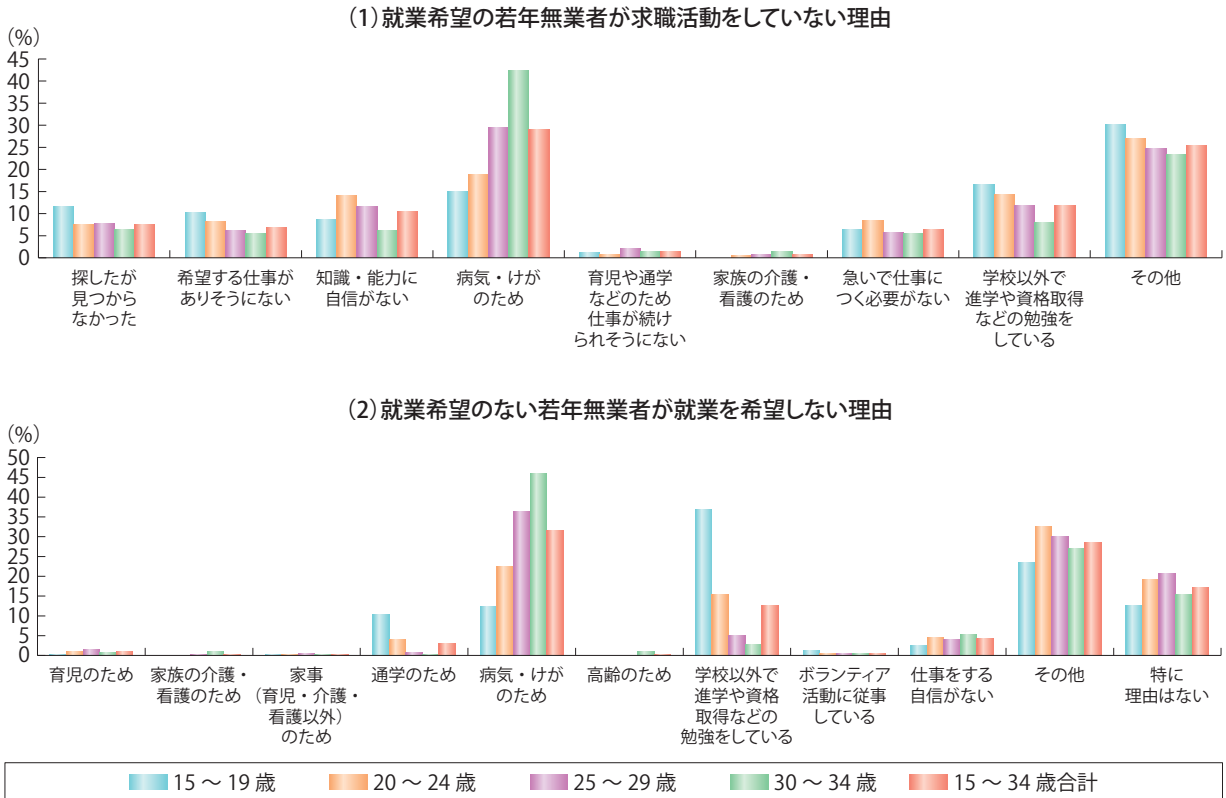
(出典) 総務省「労働力調査」
 (注) 1 ここでいう若年無業者とは、15～34歳の非労働力人口のうち家事も通学もしていない者。グラフでは参考として35～39歳の数値も記載。
 2 平成23年の数値は、岩手県、宮城県及び福島県を除いたものである。

21 若年無業者の総数は、四捨五入の関係から、内訳の合計とは必ずしも一致しない。

就業を希望しているが若年無業者が求職活動をしていない理由は、「その他」を除くと、15～19歳では「学校以外で進学や資格取得などの勉強をしている」と「病気・けがのため」が、20～24歳と25～29歳ではそれらに加え「知識・能力に自信がない」が多い。(第1-4-14図(1))

就業を希望していない若年無業者が就業を希望しない理由は、「その他」を除くと、15～19歳では「学校以外で進学や資格取得などの勉強をしている」が、20～24歳と25～29歳では「病気・けがのため」に次いで「特に理由はない」が多い。(第1-4-14図(2))

第1-4-14図 若年無業者が求職活動をしない理由、就業を希望しない理由(平成19年)



(出典) 総務省「就業構造基本調査」

(2) フリーター

15～34歳のフリーターは180万人、15～34歳人口に占める割合は6.6%。

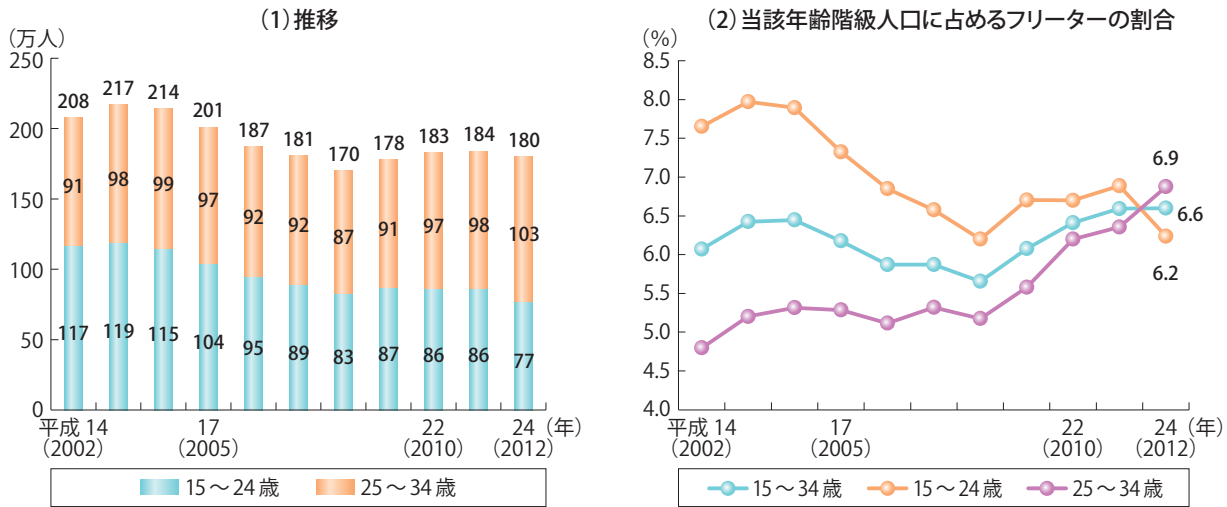
フリーターを、15～34歳で、男性は卒業者、女性は卒業者で未婚の者のうち、

- ①雇用者のうち勤め先における呼称が「パート」か「アルバイト」である者
- ②完全失業者のうち探している仕事の形態が「パート・アルバイト」の者
- ③非労働力人口で家事も通学もしていない「その他」の者のうち、就業内定しておらず、希望する仕事の形態が「パート・アルバイト」の者

の合計として集計すると、平成20(2008)年を境に景気の悪化を背景に増加傾向にあったが、平成24(2012)年には前年から減少して180万人となった。年齢階級別にみると、15～24歳では前年から大きく減少しているものの、25～34歳の年長フリーター層は平成21(2009)年以降増加を続けている。(第1-4-15図(1))

フリーターの当該年齢人口に占める割合は平成20年を底に上昇傾向にあり、平成24年は6.6%である。15～24歳では平成24年に大きく低下したものの、25～34歳の年長フリーター層では上昇が続いている。(第1-4-15図(2))

第1-4-15図 フリーター（パート・アルバイトとその希望者）の数



(出典) 総務省「労働力調査」
 (注) ここでいう「フリーター」とは、男性は卒業生、女性は卒業生で未婚の者とし、①雇用者のうち勤め先における呼称が「パート」か「アルバイト」である者、②完全失業者のうち探している仕事の形態が「パート・アルバイト」の者、③非労働力人口で家事も通学もしていない「その他」の者のうち、就業内定しておらず、希望する仕事の形態が「パート・アルバイト」の者としている。

2 ひきこもり

「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」者を含む広義のひきこもりは、69.6万人と推計。

内閣府が平成22(2010)年2月に実施した「若者の意識に関する調査(ひきこもりに関する実態調査)」²²によると、「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「自室からは出るが、家からは出ない」「自室からほとんど出ない」に該当した者(「狭義のひきこもり」)が23.6万人、「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」(「準ひきこもり」)が46.0万人、「狭義のひきこもり」と「準ひきこもり」を合わせた広義のひきこもりは69.6万人と推計される。(第1-4-16表)

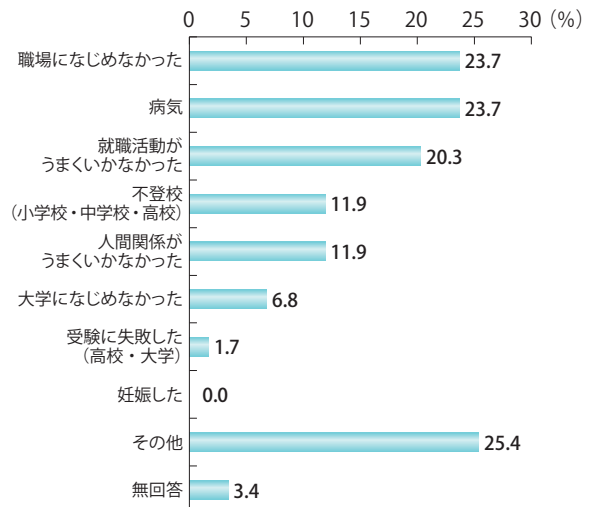
ひきこもりになったきっかけは、仕事や就職に関するものが多い。(第1-4-17図)

第1-4-16表 ひきこもり群の定義と推計数

	有効回収数に占める割合(%)	全国の推計数(万人)
ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	0.40	15.3
自室からは出るが、家からは出ない	0.09	3.5
自室からほとんど出ない	0.12	4.7
狭義のひきこもり 23.6万人 ^(注4)		
ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する	1.19	46.0
準ひきこもり 46.0万人		
計	1.79	69.6
広義のひきこもり 69.6万人		

(出典) 内閣府(2010)「若者の意識に関する調査(ひきこもりに関する実態調査)」
 (注) 1 15～39歳の5,000人を対象として、3,287人(65.7%)から回答を得た。
 2 上記ひきこもり群に該当する状態となつて6カ月以上の者のみを集計。「現在の状態のきっかけ」で統合失調症または身体的な病気と答えた者、自宅で仕事をしていると回答した者、「ふだん自宅にいるときによくしていること」で「家事・育児をする」と回答した者を除く。
 3 全国の推計数は、有効回収数に占める割合に、総務省「人口推計」(2009年)における15～39歳人口3,880万人を乗じたもの。
 4 狭義のひきこもり23.6万人は、厚生労働省「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン」における推計値25.5万世帯とほぼ一致する。

第1-4-17図 ひきこもりになったきっかけ



(出典) 内閣府(2010)「若者の意識に関する調査(ひきこもりに関する実態調査)」

22 http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/hikikomori/pdf_index.html

第1部
第1章
第2章
第3章
第4章
第5章
第6章